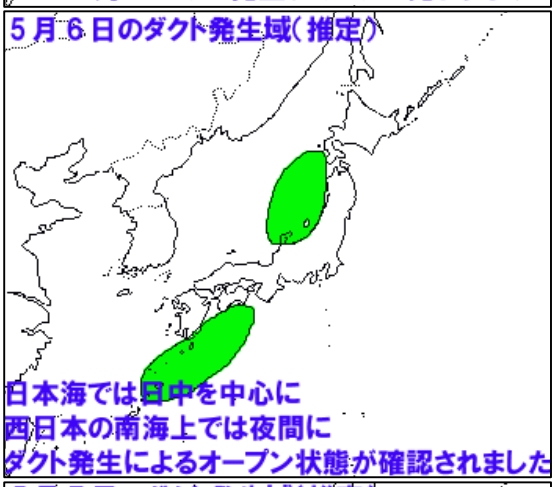
移動性高気圧に覆われ日本海ダクトオープン！

2004年5月 5日～ 8日JG0TEV　中村

移動性高気圧が本州付近を覆い、日本海ダクト、太平洋ダクト発生によるオープンが確認されました。

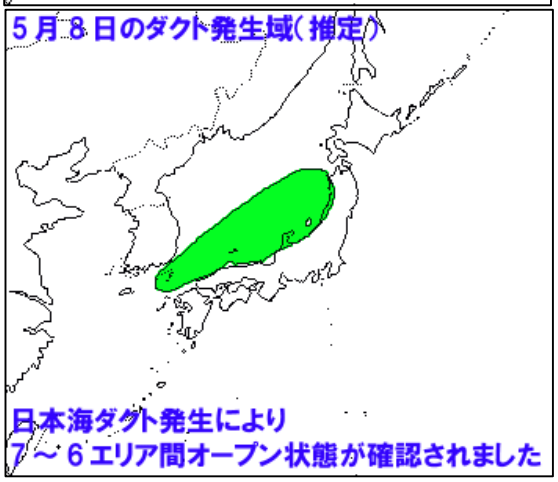
4～7エリア間オープン状態が確認されました
ダクトは日中の海上のみに発生し
夕方以降消失したことを確認しました



日本海では日中を中心に　西日本の太平洋側では夜間に
ダクト発生によるオープン状態が確認されました

日本海ダクトにより
6～7エリア間オープンが確認されました

20:26 JG7HXH (青森･西津軽郡) -JG0TEV/0 (新潟･三島郡)
RS59-57
21:59 JE9VJZ (富山･氷見市)　-JG0TEV/0 (新潟･長岡市)
RS59-59
22:16 JM4KBL (鳥取･西伯郡)　-JG0TEV/0 (新潟･長岡市)
RS58-59
23:32 JO7IZC (秋田･由利郡)　-JG0TEV/0 (新潟･三島郡)
RS59-59
23:49 JM7BWU (秋田･秋田市)　-JG0TEV/0 (新潟･三島郡)
RS59-59

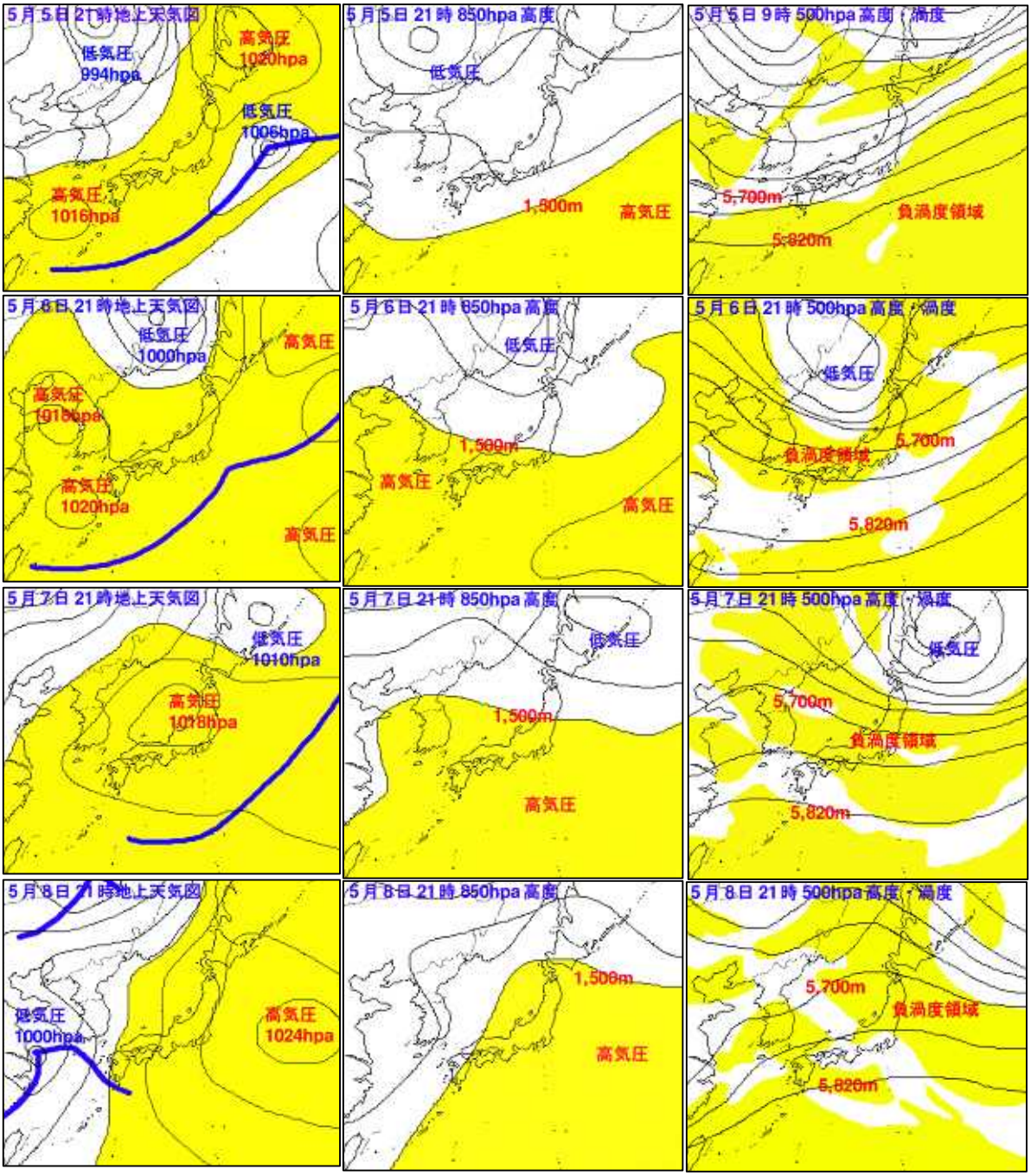


日本海ダクトにより
6～7エリア間オープン状態が確認されました

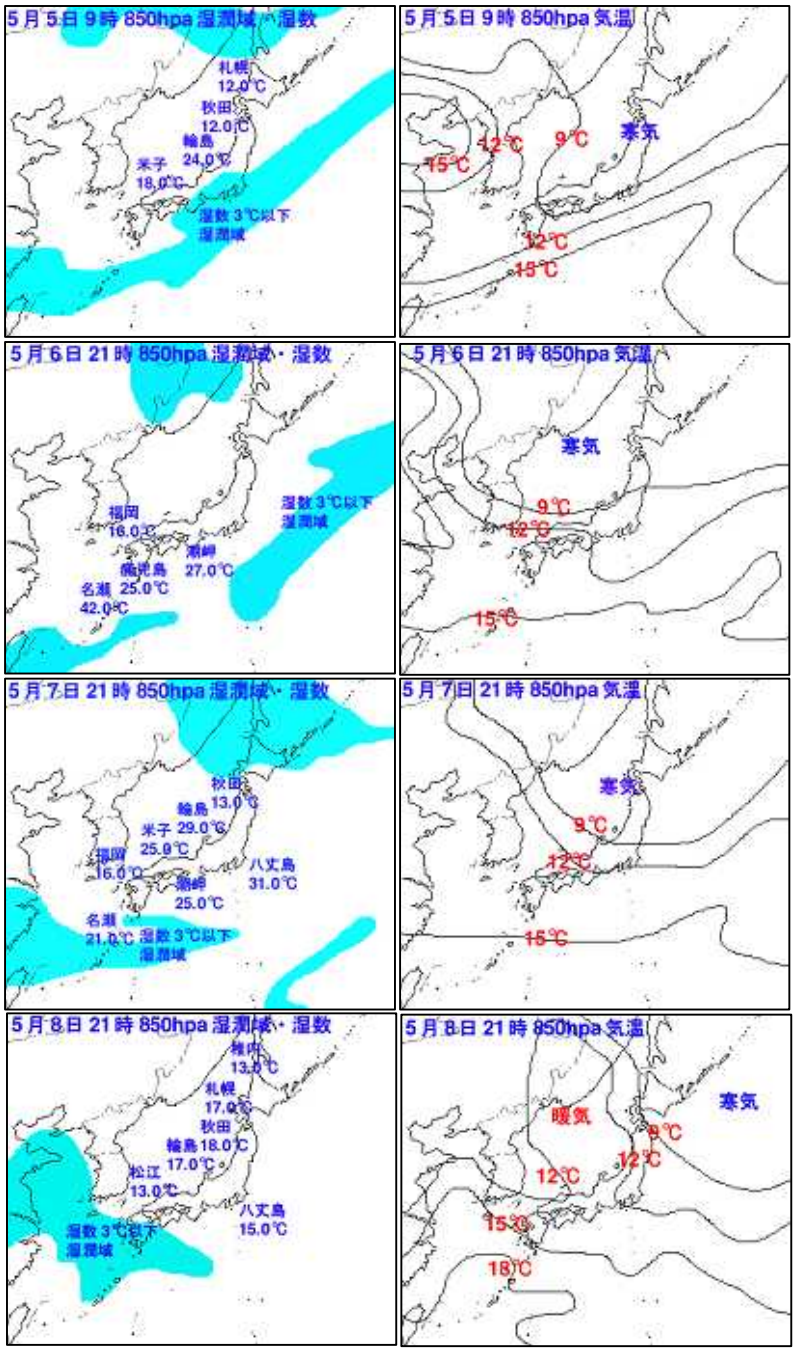
20:22 JA9MGH(富山･高岡市)-JG0TEV/0(新潟･長岡市)
RS59-59
*JG0TEV C501,280MwでRS59-56
20:44 JF9DGS(富山･氷見市)-JG0TEV/0(新潟･長岡市)
RS59-59

気象解析
地上天気図では移動性高気圧が勢力を強めながら日本付近を通過したことがよくわかります。
850hpa面をみると、1,500mの等高度線が次第に北上していく様子がわかります。
500hpa面を見ると、 5,700mの等高度線が日本付近を北上していき、8日には負渦度領域に広く覆われる状態となりました。

以上から、本州付近は次第に背の高い高気圧に覆われるようになっていったと解析できます。



850hpa面の乾燥状態を見ると、期間を通して乾燥空気が流れ込んだ様子がわかります。
850hpa面の気温分布を見ると、5日と6日を中心に北日本や東日本では寒気が残り、
次第に暖かい空気に覆われるようになっていった様子がわかります。



以上のことから、期間を通して日本付近はダクト発生条件がそろいやすい状態であったと解析できます。
5日、6日は上空に寒気が残ったことによりダクトは気温の上昇した日中に限定されやすくなったと推定します。